



二人の釈尊

住職 中島 有淳

法華経は「誰でも仏性がある」と教えます。つまり仏とは「人間の完成された状態」をいい、人々は仏の未完成の姿そのものなのです。

「仏も昔は凡夫なり。我もついには仏なり。いずれも仏性具せる身を隔つるのみこそ悲しけれ」と、その昔『平家物語』で白拍子が詠ったように、その事を自覚し気付かない人間の性が悲しいのです。

その法華経には「二人の釈尊（ブツダ）」が登場します。

一人は歴史上の釈尊で、この世に生まれ肉体を具えていた「事（事実）」の釈尊です。父と母との間にシヤカ族の王子として生まれ、結婚し、一子をもうけ、出家し、苦行し、やがて悟られ、老いて死んでゆく姿の釈尊です。

もう一人は、「事」の釈尊が悟られた法を「理（真理）」の釈尊として信心の対象とします。つまり「事」の釈尊は時間的存在であり、法華経の十六「寿命品」（自我偈）では「私は死ぬであろう」と言って、真理のまま偽りではない世界へと誘います。そこでの「理」の世界である釈尊は、「事」の世界の釈尊と違い、肉体が無いので、生も死もない「不生不滅」の存在となります。このように事と理の二人の釈尊が法華経には登場し、教えを説いているのです。

自我偈（『超訳 法華経』中村圭志著より抜粋）

私がブツダとなったのは無限の過去のことだ。

以来私は説法を続け、無数の生き物を救いの道に導いた。

方便として私は死ぬというが、常に存在して説法している。

心の乱れた衆生には私が見えない。これは私がかけた魔法である。

私の骨を供養して、私に会うことを願う時、私は靈鷲山に現れる。

私はいつもここにいます。死は見せかけである。

他の平行世界の者のためにも、私は説法をしている。

そんな私を君たちは死んだと思って嘆いている。

生き物たちはみな苦の海に溺れている。

だからむしろ私は身を隠して、人々の心に恋慕を起こさせる。

私は永遠に靈鷲山にいる。終末の劫火の中でも、

私の樂園は花咲き乱れ、幸福な生き物で一杯だ。

私の樂園は不滅であるのに、世界は燃えているように見える。

功德ある者は「ブツダの寿命は無限である」と思う。

救済を逃し続ける者は「ブツダにはとても会えない」と思う。

私のメッセージは二重なのだ。

知恵ある者よ、確信をもて。

ブツダの言葉は真実であって、虚妄ではない。

私もまた名医の父のように「父は死んだ」と告げて世を救おう。これが私の方便だ。これがみなが真理に至る近道なのだ。

折りふしのはな

パプリカ

赤や黄色のカラフルなパプリカ
見た目も華やかに
食卓を彩ります

この頃では子供達が
パプリカの歌を
歌ったり踊ったり

一躍有名になりました

おいしく御飯が頂ける幸せを
かみしめ

あしたに平和の種を蒔きましょう（遊）



月例行事案内

◎八 日 午後二時

薬師如来祈禱会 観音経読誦

◎十二 日 午後二時

智泉院法要日（於・日本橋茅場町）

◎十八 日 午後二時

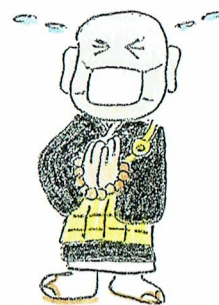
観音経読誦法要（於・神木観音堂）

◎二十八 日 午後二時

不動明王護摩供修行

* 毎朝六時の朝参り（公開）を再開いたします
ご都合のよろしい時には「一緒にどうぞ

どなたさまで
も参詣下さい
（マスクは着用下さい）



第34回

夏休み子供止観（坐禅）会 中止のご案内

恒例となりました夏休みの坐禅会ですが、
コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み
本年は開催を見送ります。

*楽しみにしてくれていたお友だち、ごメンネ…!

月例坐禅会のみ 7/18(土) 10時～11時
10名限定(要事前申込・500円)にて開催致します

あとがき

○河井前法相と妻の案里議員が買収容疑（94人）で逮捕（6/18）されました。公正な法や刑の執行を司る立場の法相に就いた人の事件だけに深刻です。

○深刻といえばコロナ禍。世界中マスク姿ばかりの映像で、その影響は止まるところを知らません。そして貧困の津波が地球におし寄せています。

○六月二十三日、沖縄は戦後75年の「慰霊の日」を迎えました。日米計約二十万人・県民の四人に一人が亡くなったとされます。若い日「平和の礎」を訪れた折に、その刻まれた人の数の多さに圧倒されました。

○「スパコン富岳」が四部門で速さ世界一に。使いやすさオンラインワンを目指して開発され、今後の利用に期待が。

○夏の風物といえば、西瓜、日傘、かき氷、海水浴、花火、冷やしソーメン、冷やし中華、お化け屋敷、浴衣、螢狩り…と次々に想い起こします。

風鈴の音を点ぜし 軒端かな 高浜虚子